

吹奏楽の基本は呼吸法と調和！

●飯沼中学校吹奏楽部へ出張指導！

昨日の午後3時50分から5時は「音楽の都ウィーンからの贈り物・出張指導」で春日部市立飯沼中学校吹奏楽部（野田隆幸校長、部員数19名）へ富田千種様による合奏指導でした。昨年は夏前の指導でしたので3年生もいて30名弱だったのですが、今年は3年生が抜け少々寂しい人数でした。



最初に皆さんが普段練習している曲を聴かせていただくことになりました。飯沼中学校では、10月18日(水)に春日部市民文化会館で行われる合唱祭でクラス毎、学年毎の合唱の他に吹奏楽部が約20分間の演奏を披露するそうです。その1曲の「愛唄」を演奏してくれました。

指導前の演奏では、まだ皆さん温まっていなかったことや中間テストで5日間のブランクがあったことなどもあり、私の感覚でも音程がバラバラでまとまりがないなあ…と感じる状態でした。さて、ここから富田様がどのようにまとめられるのか、部員の皆さんに何を伝えるのかを楽しみに見学させていただきました。

* *

◆基本は腹式呼吸です

皆さん、昨年も皆さんにお話したように、発声も演奏も全て呼吸が基本です。皆さんの演奏を聴いていると、身体の支えがしっかりとしていないので、音がダラ～ッとなってしまっているのです。演奏は座ってやるのでしたら、座った状態での呼吸になります。姿勢を正してまず息を吸ってみましょう。

息を吸うとお腹が膨らみ出ますね、逆に吐くとお腹が引っ込みます。横隔膜を使ってお腹を膨らませたり、引っ込めることで息を調整します。その時に大切なのが、息を吸って止めて身体の芯をしっかりと使ってから演奏を始めるということです。

では、一緒にやってみましょう。息を大きく吸って止める。そして少しずつ吐いていく〔実演〕。今度は息を早く吐いてみましょう〔ハッハッハッハッ〕。息を吸うときも吐くときも同じ姿勢です。

息を大きく吸って止める、そして長く吐いていく。大きく吸って今度は早く吐いていく。こうしたことが声楽もそうですが吹奏楽の基本です。そして、息を早く吐くと、自然と息を吸っているのが分かりますか。吹奏楽のポイントは、この呼吸法にあることをしっかりと覚えてください。

次に同じ音程で音をしっかりと出してみましょう。クラリネットとフルートからレガートで滑らかに〔…最初は安定しなかった音程が、10回程度繰り返す間に安定して…〕。クラリネットはフルートの倍近くの大さに聞こえるので、もう少しピアノで演奏してみましょう。ピアノ、クレシェンド、フォルテ、スタカート、そうできるようになりましたね。次はサクソです。サクソは全体を支える楽器ですから、二人が相手を見て音を合わせないとはいけませんね。〔続いてホルン、チューバ、トランペット、トロンボーンと次々にパート練習をしていきます…〕。

演奏の時に大切なことは、各楽器のハーモニーです。お互いの音量に気を付けないといけません。トロンボーンが旋律を奏でている時にトランペットが大きな音を出すと旋律がはっきりしませんし、次のフルートを際立たせるためには、その前の部分でトランペットはスタカートで演奏をした方が良くも知れません。いろいろな演奏を試しながら、気持ちの良い音を作ってください。



* * 指導を受けて最後の合奏では、聴き違える音色とハーモニーになっていました。皆さん、音楽が好きなのですね。18日の演奏に期待！